

【研究主題】

社会とつながる児童の育成～ICTを活用して地域とのネットワークづくりを実現する防災教育～

【開発するプログラムの概要】

グループウェアを活用し、自然災害における地域課題を子どもと地域の大人が協働で考える地域ネットワークづくりを実現するプログラムの開発

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<小学校・6年生> 社会科

【単元名】自然災害からの復旧・復興 (1)ア(イ)(ウ)イ(イ)

【主な単元の目標】

国や地方公共団体の政治について、政策の内容や計画から実施までの過程、法律や予算との関わりなどに着目して、見学・調査したり各種の資料で調べたりしてまとめ、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解できるようにする。

【学習問題】

自然災害によって被害に遭った人々の願いを実現するために、政治はどのようなはたらきをしているのだろう。

【実践例】 ※社会科「自然災害からの復旧・復興」第1-3/10時、総合的な学習の時間 第4-10/10時

授業の概要

<概要>

- ・熊野町を例に取り上げ、過去の災害時には、ペットやアレルギー、乳幼児、高齢者など様々な理由から避難所利用率が非常に低かったこと、その後、行政が町民の声を聞きながら、新たな避難所「熊野町防災交流センター」の開設に至ったことを知り、地方公共団体の政治は、国民の願いを実現し国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることなどを理解する。
- ・熊野町の事例を参考にしつつ、千葉市防災課担当者の話やPC等を使って収集した情報などを基に、自分たちの地域における避難所や防災の状況について調べ、災害時に自分たちにできること、地方公共団体に頼らなければならないことについて考え、整理する。



<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

- ・熊野町の事例を参考にすることで、災害時に起こり得る課題を具体的にイメージする際の支援とした。

○社会科と他教科等との連携

理科「土地のつくりと変化」 総合的な学習の時間「地域の防災を考える」

専門家や関係諸機関等との連携・協働

事例の提供（広島県熊野町役場防災安全課、熊野東防災交流センター、熊野町立熊野第一小学校）／地域の防災を考える際の指導・助言（千葉県千葉市防災対策課、NPO法人Drops、一級建築事務所o+h）

効果等

- ◆「避難所」を取り上げ、そこに集まる様々な人の営みや運営する人の思いなどに触れることで、多角的な思考につなげることができた。
- ◆熊野町の学びにとどまらず、総合的な学習の時間「地域の防災を考える」につなげたことで、自分たちの地域の避難所や避難行動について切実感をもって考えることができた。

時間	主な学習内容	
	社会科	関連付けた他教科等
1	西日本豪雨の様子や被害の概要について調べる。	理科「土地のつくりと変化」
2/ 3	熊野町を例とし、発災直後、復旧期、復興期に分け、それぞれのフェーズの政治のはたらきを調べる	
4- 10	総合的な学習の時間「地域の防災を考える」（千葉市の避難所、防災対策） ※「熊野東防災交流センター」の開設経緯を取り扱う。	

※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

※このほか、4、5年生についても研究を行った。